

小児がん拠点病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

✓チェック欄
に未入力なし

病院名	広島大学病院												
よみがな	ひろしまだいがくびょういん										✓		
郵便番号	〒	734-8551									✓		
住所	広島県	広島市南区霞1-2-3									✓		
よみがな		ひろしましみなみくかすみ									✓		
電話(代表)	082-257-5555										✓		
FAX(代表)													
e-mail(代表)													
HPアドレス	https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp												
診療科	開設診療科数	37									✓		
診療科名(具体的に記載)	内科 脳神経外科 脳神経内科 精神科 眼科 耳鼻いんこう科 呼吸器内科 呼吸器外科 循環器内科 心臓血管外科 消化器・代謝内科 消化器外科 移植外科 内分泌・糖尿病内科 乳腺外科 血液内科 皮膚科 整形外科 形成外科 麻酔科 リウマチ科 腎臓内科 泌尿器科 産婦人科 放射線診断科 放射線治療科 小児科 小児外科 救急科 腫瘍内科 感染症内科 病理診断科 リハビリテーション科 歯科 矯正歯科 小児歯科 歯科口腔外科										✓		
外来診療受付時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	30	分	～	11	時	00	分	✓
	曜日	月曜日～金曜日	時間	13	時	00	分	～	15	時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
外来診療時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	9	時	00	分	～	17	時	00	分	✓
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
休診日	毎週土・日曜日、その他(祝日・年末年始(12月29日～1月3日))										✓		
初診時の予約	一部の診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
初診時の紹介状の要否	一部の診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
病床数	総病床数	746	床								✓		

診療実績 (平成30年1月1日～12月31日)

年間新入院患者数 ※1	1,014	人	✓
年間新入院小児がん患者数 ※1	104	人	✓
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合	10.3	%	
小児がん入院患者数 ※2	532	人	✓
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	9,695	日	✓
小児がん入院患者における再発患者数 ※3	198	人	✓
外来小児がん患者数 ※4	4,053	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	22	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	2	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	34	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	28	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	61	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関数	59	機関	✓

※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。

※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。

※3 18歳以下を対象とする。初回治療後に再発もしくは病態が増悪した入院患者数を延べ数で計上する。初回治療入院中に再発もしくは病態が増悪した場合も計上する。

※4 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。

※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称

小児血液腫瘍外来、血液移植フォローアップ外来、長期フォローアップ外来

✓

届出された先進医療の状況

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

[別紙1](#)

職員数

総数(事務職員を含む)

2,883 人

人数 うち常勤(※)

医師

811 535

歯科医師

251 194

薬剤師

69 69

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはならない。

保健師
看護師
准看護師
理学療法士
作業療法士
視能訓練士
言語聴覚士
義肢装具士
診療放射線技師
臨床検査技師
衛生検査技師
臨床工学技士
管理栄養士
栄養士
社会福祉士
精神保健福祉士
介護福祉士
保育士

0	0
883	868
0	0
29	29
8	8
12	12
9	7
0	0
54	53
76	72
0	0
19	19
14	14
4	4
9	9
0	0
0	0
1	1

みなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医
日本小児血液・がん学会 指導医
日本小児血液・がん学会 暫定指導医
日本小児血液・がん学会 認定外科医
日本小児外科学会 専門医
日本小児外科学会 指導医
日本小児科学会小児科 専門医
日本小児神経学会 小児神経専門医
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
日本病理学会 病理専門医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
がん治療認定医機構 がん治療認定医
がん治療認定医機構 暫定教育医
日本放射線腫瘍学会 認定医
日本緩和医療学会 緩和医療専門医
日本緩和医療学会 緩和医療認定医
日本看護協会 がん看護専門看護師
日本看護協会 小児看護専門看護師

3	3
2	2
0	0
1	1
2	2
1	1
29	13
2	1
23	13
9	8
5	5
51	46
8	7
0	0
1	1
2	1
4	4
2	2

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

日本看護協会 地域看護専門看護師
 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
 日本看護協会 緩和ケア認定看護師
 日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師
 日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師
 日本臨床細胞学会 細胞検査士
 日本医学放射線学会 医学物理士
 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士
 一般社団法人 日本病態栄養学会/
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士
 一般社団法人 日本人類遺伝学会
 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー
 一般社団法人 日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー
 チャイルドライフスペシャリスト
 ホスピタルプレイスペシャリスト

0	0
2	2
3	3
0	0
2	2
2	2
3	3
1	1
3	3
12	12
7	7
7	7
4	3
3	3
1	1
0	0
2	2
0	0

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

病院名: 広島大学病院

「A」項目の充足状況・・・ 76 / 76

100.0%

1 診療体制

(1) 診療機能

① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供

小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。

専門とするがんについて別紙2に記載すること。

A : 必須
B : 望ましい
- : 参考

はい: 記載内容を満たしている
いいえ: 記載内容を満たしていない

チェック欄に未入力なし

Aの充足状況

A はい (はい/いいえ)

8 ☒ ☐

別紙2

9 ☐ ☐

小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めている、カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。

カンサーボードの開催回数（平成30年1月1日～12月31日）

- 87 回

11 ☒ ☐

小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。

A はい (はい/いいえ)

12 ☒ ☐

長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。

- はい (はい/いいえ)

13 ☒ ☐

長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙3に記載すること。

別紙3

14 ☐ ☐

AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。

A はい (はい/いいえ)

15 ☒ ☐

AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況）について別紙4に記載すること。

別紙4

16 ☐ ☐

急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。

A はい (はい/いいえ)

17 ☒ ☐

治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。

B はい (はい/いいえ)

18 ☒ ☐

生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙5に記載すること。

別紙5

19 ☐ ☐

保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。

A はい (はい/いいえ)

20 ☒ ☐

② 薬物療法の提供体制

薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。

A はい (はい/いいえ)

22 ☒ ☐

薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙6に記載すること。

別紙6

23 ☐ ☐

③ 緩和ケアの提供体制

小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。

A はい (はい/いいえ)

25 ☒ ☐

	緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙8に記載すること。	別紙8	27		
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B はい (はい/いいえ)	28	☒	
	緩和ケア外来について別紙9に記載すること。	別紙9	29		
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的開催している。	A はい (はい/いいえ)	30	☒	☐
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	- 12 回	31	☒	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A はい (はい/いいえ)	32	☒	☐
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	- 病院のwebサイトに掲載、院内掲示板へのポスター掲	33		
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A はい (はい/いいえ)	34	☒	☐
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B はい (はい/いいえ)	35	☒	
	緩和ケア病棟について別紙10に記載すること。	別紙10	36		
④ 病病連携・病診連携の協力体制					
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A はい (はい/いいえ)	38	☒	☐
	地域の医療機関との連携協力体制について別紙11に記載すること。	別紙11	39		
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A はい (はい/いいえ)	40	☒	☐
ウ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B いいえ (はい/いいえ)	41	☒	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B はい (はい/いいえ)	42	☒	
⑤ セカンドオピニオンの提示体制					
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A はい (はい/いいえ)	44	☒	☐
	セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙12に記載すること。	別紙12	45		
⑥ その他					
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	- はい (はい/いいえ)	47	☒	
(2)診療従事者					
用語の定義: 専任:当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従:就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。					
① 専門的な知識および技能を有する医師の配置					

			ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	19	人	1人以上	51	☒	☐
--	--	--	----------------------------------	---	----	---	------	----	-------------------------------------	-----------------------

	放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	12	人	52	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	4	人	53	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	4	人 1人以上	54	✓	○
	薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	4	人	55	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	4	人	56	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	4	人	57	✓	
ウ	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	1	人 1人以上	58	✓	○
	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	59	✓	
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	1	人 1人以上	60	✓	○
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	61	✓	
	緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	4	人	62	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	4	人	63	✓	
	受講率	-	100.0	%	64		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	1	人	65	✓	
	受講率	-	25.0	%	66		
	小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	19	人	67	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	19	人	68	✓	
	受講率	-	100.0	%	69		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	5	人	70	✓	
	受講率	-	26.3	%	71		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、小児がん患者の主治医や担当医となることは想定されないが、主治医等から診察依頼を受けた場合や当直業務などで小児がん患者に対する診療を行うことがある者の人数。	-	760	人	72	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	456	人	73	✓	
	受講率	-	60.0	%	74		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	75	✓	
	受講率	-	0.4	%	76		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、病理診断医や放射線診断医など、小児がん患者との日常的な対面は想定されない者の人数。	-	314	人	77	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	46	人	78	✓	
	受講率	-	14.6	%	79		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	80	✓	
	受講率	-	0.0	%	81		
	施設に所属する初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師の人数。	-	115	人	82	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	99	人	83	✓	
	受講率	-	86.1	%	84		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	85	✓	
	受講率	-	0.0	%	86		
	病院長はPEACE(成人の緩和ケア研修会)を修了している。	-	はい	(はい/いいえ)	87	✓	
	病院長はCLIC(小児の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	88	✓	

	エ 病理診断に携わる医師の人数。	- 16 人	89	✓
--	------------------	--------	----	---

	病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	15	人	1人以上	90	☒	☐
	病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	3	人		91	☒	
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置								
	ア 放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	10	人	1人以上	93	☒	☐
	放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	9	人		94	☒	
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	5	人	1人以上	95	☒	☐
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	5	人		96	☒	
	イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	5	人		97	☒	
	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	5	人	1人以上	98	☒	☐
	ウ 緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	3	人		99	☒	
	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	3	人	1人以上	100	☒	☐
	緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	1	人		101	☒	
	緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	1	人		102	☒	
	エ 細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	10	人		103	☒	
	オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	6	人		104	☒	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	2	人		105	☒	
	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	6	人		106	☒	
	小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	2	人		107	☒	
	小児科領域に関する専門的知識を有する社会福祉士の人数	-	2	人		108	☒	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	2	人		109	☒	
③ その他								
	ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい／いいえ)		111	☒	
	拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数（放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。）、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい／いいえ)		112	☒	☐
	学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい／いいえ)		113	☒	
	論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい／いいえ)		114	☒	
(3) 医療施設								
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置								
	ア 放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい／いいえ)		117	☒	☐
	イ 集中治療室を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)		118	☒	☐
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特集中治療室（ICU）の数	-	5	床		119	☒	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特集中治療室（PICU）の数	-	1	床		120	☒	

			ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい／いいえ)	¹²¹	☒	☐
--	--	--	--	---	----	----------	----------------	-------------------------------------	-----------------------

	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況について別紙13に記載すること。		別紙13		122
	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙14に記載すること。		別紙14		123
	小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	回	124
② 敷地内禁煙等					125
	敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい/いいえ)	126
	敷地内は全面禁煙である。	-	はい	(はい/いいえ)	127
(4) 診療実績					128
①	小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	129
②	固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	130
③	造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい/いいえ)	131
	診療実績等について別紙2および別紙15に記載すること。		別紙2・別紙15		132
(5) その他					133
①	小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい	(はい/いいえ)	134
	特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。	-	はい	(はい/いいえ)	135
	特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	-	はい	(はい/いいえ)	136
②	小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい	(はい/いいえ)	137
	公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。	-	はい	(はい/いいえ)	138
	日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。	-	はい	(はい/いいえ)	139
③	一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。	A	はい	(はい/いいえ)	140
	上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。	-	はい	(はい/いいえ)	141
	配置している上記研修会を受講した医師の人数	A	3	人	142
	配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数	-	4	人	143
	(配置していない場合)令和元年度中に講習を受講する予定である。	-		(はい/いいえ)	144
2 研修の実施体制					145
	小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。	A	はい	(はい/いいえ)	146
	小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。		別紙16		147
3 情報の収集提供体制					148
(1) 相談支援センター					149

小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門（以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。）を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。

A

はい

（はい／いいえ）

150

✓

○

広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のwebサイトに掲載, 院内掲示, サポートブックの		151		
相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。		別紙17		152		
相談支援センターの状況について別紙18に記載すること。		別紙18		153		
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙19に記載すること。		別紙19		154		
①「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	155	✓	○
②患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	156	✓	○
③院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	157	✓	○
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)	158	✓	
小児がん患者団体等との連携について別紙20に記載すること。		別紙20		159		
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)				160		
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	161	✓	○
アの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	40	件	162	✓	
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	163	✓	○
イの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	16	件	164	✓	
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	165	✓	○
ウの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	2	件	166	✓	
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	167	✓	○
エの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	51	件	168	✓	
エのうち、アピアランスに関する相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	4	件	169	✓	
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	170	✓	○
オの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	54	件	171	✓	
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	172	✓	○
カの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	6	件	173	✓	
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	174	✓	○
キの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	5	件	175	✓	
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい/いいえ)	176	✓	○
クの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	46	件	177	✓	
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	178	✓	○
ケの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	件	179	✓	
コ その他相談支援に関することをやっている。	A	はい	(はい/いいえ)	180	✓	○

コの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)			-	55	件	181	☒	
(2)院内がん登録								
①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)	182	☒	☐	
②	院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	183	☒	☐	
③	院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	3	人 1人以上	184	☒	☐	
	うち専従者の人数	-	2	人	185	☒	☐	
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)	186	☒	☐	
④	院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	(はい/いいえ)	187	☒	☐	
⑤	適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	(はい/いいえ)	188	☒	☐	
⑥	院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい/いいえ)	189	☒	☐	
⑦	院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい/いいえ)	190	☒	☐	
⑧	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	191	☒	☐	
(3)診療実績、診療機能等の情報提供								
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	192	☒	☐	
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のwebサイトに掲載		193	☒	☐	
(4)その他								
	地域住民に対する病院、相談支援センター、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟(設置されているのみ)に関するアピールを別紙21に記載すること。		別紙21		194	☒	☐	
4 臨床研究に関すること								
	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)	195	☒	☐	
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	196	☒	☐	
(2)-1	進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	197	☒	☐	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のwebサイトに掲載		198	☒	☐	
(2)-2	進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	199	☒	☐	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のwebサイトに掲載		200	☒	☐	
(3)	参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい	(はい/いいえ)	201	☒	☐	
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のwebサイトに掲載		202	☒	☐	
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	203	☒	☐	
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)	204	☒	☐	

	臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙22に記載すること。		別紙22	209	
(5)	臨床研究コーディネーター（CRC）を配置している。	B	はい	(はい／いいえ)	210
					✓

臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	21	人	211	☒	
臨床研究の問い合わせ窓口について別紙23に記載すること。		別紙23		212		
臨床研究の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	23	件	213	☒	
臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	7	件	214	☒	
治験の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	5	件	215	☒	
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備						
(1) 保育士を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	217	☒	☐
保育士の人数	-	1	人	218	☒	
保育士のうち常勤の人数	-	1	人	219	☒	
(2) 病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	220	☒	☐
特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	いいえ	(はい／いいえ)	221	☒	
特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	いいえ	(はい／いいえ)	222	☒	
病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	223	☒	
高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	224	☒	
(3) 退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	225	☒	☐
教育支援、復園・復学支援の状況について別紙24に記載すること。		別紙24		226		
(4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)	227	☒	☐
AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい／いいえ)	228	☒	
(5) 家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい／いいえ)	229	☒	☐
部屋数	-	11	部屋	230	☒	
長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	いいえ	(はい／いいえ)	231	☒	
長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙25に記載すること。		別紙25		232		
(6) 家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	233	☒	☐
(7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい／いいえ)	234	☒	
6 PDCAサイクル						
(1) 自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい／いいえ)	236	☒	☐
把握・評価の方法、改善策等について別紙26に記載すること。		別紙26		237		
(2) これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	238	☒	☐
地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のwebサイトに掲載		239		
7 医療安全体制						
(1) 組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	241	☒	☐
(2) 医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	242	☒	☐

(3) 医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	A	はい (はい／いいえ) ²⁴³	☒	☐
----------------------------------	---	----------------------------	-------------------------------------	-----------------------

(4) 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい	(はい／いいえ)	244	✓	
当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。				245		
① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	A	はい	(はい／いいえ／-)	246	✓	○
② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	A	はい	(はい／いいえ／-)	247	✓	○
③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	A	はい	(はい／いいえ／-)	248	✓	○
(5) 医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	249	✓	○
医療安全体制について別紙27に記載すること。		別紙27		250		

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在(実施件数は平成31年4月1日～令和元年7月31日)

先進医療窓口情報									
先進医療の実施		実施していません		(実施しています／実施していません)					
先進医療A	問い合わせ窓口			(窓口があります／窓口がありません)					
	窓口名								
	技術名								
	電話番号	代表			内線				
		直通							
	対象となる病名・病状								
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件				
先進医療B	問い合わせ窓口			(窓口があります／窓口がありません)					
	窓口名								
	技術名								
	電話番号	代表			内線				
		直通							
	対象となる病名・病状								
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件				

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

小児がんについての対応状況を記載してください。
※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。
※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。
※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄
に未入力なし

小児脳腫瘍

集学的治療の実施状況

○

(○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

病院名:

広島大学病院

時期・期間:

令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 （5診療科まで）	医師数	当該疾患を専門としている医師数		手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※トップページ以外を2つまで記載してください※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
						体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		治療内容	治療実績	医師の専門分野			
1	脳神経外科	21	5	状況	○	○	○	○	○	×	×	×	×	小児脳腫瘍の治療センターとなっており、常に小児脳腫瘍の患児が入院に、手術、化学療法、放射線療法を行っています。発達の時期に当たり、ホルモン分泌状態、身体精神発達に関して、小児科と連携しながら治療を進めています。長年厚生労働省の研究班に属し、常に小児脳腫瘍の患児が入院に、手術、化学療法、放射線療法を行っています。発達の時期に当たり、ホルモン分泌状態、身体精神発達に関して、小児科と連携しながら治療を進めています。	広島大学 脳神経外科 治療実績	http://home.hiroshima-u.ac.jp/nouge/achievement.html	掲載なし	掲載あり	掲載なし	
			実績	あり	あり	あり	あり	あり	あり	なし	なし	なし	なし		広島大学病院 脳神経外科 外来診療	http://home.hiroshima-u.ac.jp/nouge/clinic.html	掲載あり	掲載なし	掲載あり	
2	小児科	30	11	状況	×	○	○	○	○	×	×	×	×		広島大学病院 小児科	https://home.hiroshima-u.ac.jp/syoni/hiroped/newport/medical_service.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績	なし	あり	あり	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし			http://				
3	放射線治療科	8	2	状況	×	×	○	○	○	×	×	×	×		脳神経外科、小児科と連携して集学的治療を行います。		http://			
			実績	なし	なし	あり	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし				http://			
4	がん化学療法科	4	1	状況	×	○	×	×	×	×	×	×	×		化学療法の適応となった患者さんに対して抗がん剤治療をおこなっています。	広島大学病院 がん化学療法科	https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/sinryoka/shinryo_ika/oncology	掲載なし	掲載なし	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし				http://			
5				状況													http://			
				実績													http://			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容								
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日						神経膠腫（びまん性星細胞腫、毛様細胞性星細胞腫、退形成性星細胞腫、乏突起神経膠腫、膠芽腫、diffuse midline glioma）、髄芽腫、atypical teratoid/rhabdoid tumor、上衣腫、退形成上衣腫、下垂体腺腫、胚細胞腫、脈絡叢乳頭腫、ランゲルハンス細胞組織球症、横紋筋肉腫、頭蓋咽頭腫、転移性脳腫瘍														

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日												当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 （5診療科まで）	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている 医師 数			手術	冷凍 凝固術	光凝固 術	化学 療法	眼動注	放射線療法			陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容		
										体外 照射	IMRT	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)		見出し	アドレス	治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野
1	眼科	20	3	状 況	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個々の患者さんの状態に合わせたより 良い治療法を検討し、最善の治療を 行っております。	眼科診療スタッフ	https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/sinryoka/shinryo_ika/ganka/staff/	掲載なし	掲載なし	掲載あり
				実 績	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		http://				
2	脳神経外科	21	4	状 況	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	小児の眼窩内にも腫瘍が出来て、目の 位置がずれる、眼が張り出してくる、閉 じきれない、二重に見えるなど色々症状 があります。眼科、小児科と協力して診 断治療に当たっています。	広島大学 脳神経外 科 治療実績	http://home.hiroshima-u.ac.jp/nouge/achievement.html	掲載なし	掲載あり	掲載なし
				実 績	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		広島大学病院 脳神 経外科 外来診療	http://home.hiroshima-u.ac.jp/nouge/clinic.html	掲載あり	掲載なし	掲載あり
3	小児科	30	11	状 況	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	小児科では眼科での手術療法前後の 化学療法を実施しています。	広島大学病院 小児 科	https://home.hiroshima-u.ac.jp/syoni/hiroped/newport/medical_service.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実 績	なし	なし	なし	あり	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし		http://				
4	放射線治療科	8	2	状 況	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	眼科と連携して治療を行います。		http://			
				実 績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		http://				
5				状 況															http://			
				実 績														http://				
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名							治療内容										
他の治療(1)																						
他の治療(2)																						
他の治療(3)																						
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					網膜芽細胞腫、横紋筋肉腫																	

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日												各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ							
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている医 師数	手術				化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	重粒子 線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容							
			切・離断 術	患肢 温存術	再建術	骨移植 術		体外 照射	小線源 治療			他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)			治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野					
見出し		アドレス																						
1	小児科	30	11	状 況	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	小児科では外科系診療科(小児外科・ 整形外科など)での手術療法前後の化 学療法を実施しています。また、難治性 腫瘍に対しては超大量化学療法や造血 幹細胞移植も取り入れた積極的な治療 を実施しています。	広島大学病院 小児 科	https://home.hiroshima-u.ac.jp/syoni/hiropad/newport/medical_service.html		掲載あり	掲載あり	掲載あり	
				実 績	なし	なし	なし	なし	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし		http://						
2	整形外科	15	2	状 況	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	小児科と連携し、患肢温存を目的とし化 学療法、放射線治療を組み合わせた最 新治療を行っています。	広島大学整形外科 骨・軟部腫瘍	http://home.hiroshima-u.ac.jp/seikei/guide/sp02.html		掲載あり	掲載あり	掲載なし	
				実 績	あり	あり	あり	あり	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし		広島大学整形外科 医局員紹介	http://home.hiroshima-u.ac.jp/seikei/office/office.html		掲載なし	掲載なし	掲載あり	
3	放射線治療科	8	2	状 況	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	小児科、小児外科と連携して集学的治 療を行います。		http://					
				実 績	なし	なし	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし			http://					
4				状 況															http://					
				実 績															http://					
5				状 況															http://					
				実 績															http://					
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名								治療内容											
他の治療(1)																								
他の治療(2)																								
他の治療(3)																								
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					骨肉腫、横紋筋肉腫、悪性末梢神経鞘腫、ユーイング肉腫																			

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日									各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている医 師数		手術	化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容					
						体外 照射	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)	見出し		アドレス	治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野		
1	小児科	30	11	状 況	×	○	○	×	×	×	×	×	×	小児科では外科系診療科(小児外科・ 整形外科など)での手術療法前後の化 学療法を実施しています。また、難治性 腫瘍に対しては超大量化学療法や造血 幹細胞移植も取り入れた積極的な治療 を実施しています。	小児肝がんとは	http://home.hiroshima- u.ac.jp/eiso/kangantoha.ht ml	掲載あり	掲載なし	掲載なし
				実 績	なし	あり	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし		http://				
2	放射線治療科	8	2	状 況	×	×	○	○	×	×	×	×	×	小児科、小児外科と連携して集学的治 療を行います。		http://			
				実 績	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし		http://				
3	小児外科	3	1	状 況	○	×	×	×	×	×	×	×	×	国外症例では、山口県、鳥取県、島根 県から手術を目的に紹介を受けていま す。術後の抗がん剤治療に関して、当 院小児科転科して治療終了まで対応す るケースもあれば、術後紹介元に搬送 し、術後化学療法を行うケースもあり 様々です。		http://			
				実 績	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		http://				
4				状 況											http://				
				実 績											http://				
5				状 況											http://				
				実 績											http://				
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください							治療名						治療内容						
他の治療(1)																			
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日							神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、腹腔内横紋筋肉腫												

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ			
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数		化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記その他の治療法欄と合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
					自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			治療内容	治療実績	医師の専門分野	
													見出し					アドレス
1 小児科	30	11	状況	○	×	○	○	○	○	×	×	×	JCCG(日本小児がん研究グループ)、JPLSG(日本小児白血病リンパ腫研究グループ)、JAGLS(小児白血病研究会)に所属しており、全国統一の治療を実施しています。 小児科、小児外科と連携して集学的治療を行います。		http://			
			実績	あり	なし	あり	あり	あり	なし	なし	なし	なし						
2 放射線治療科	8	2	状況	×	×	×	×	○	○	×	×	×			http://			
			実績	なし	なし	なし	なし	あり	あり	なし	なし	なし						
3			状況												http://			
			実績															
4			状況												http://			
			実績															
5			状況												http://			
			実績															
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名					治療内容									
他の治療(1)																		
他の治療(2)																		
他の治療(3)																		
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				急性リンパ性白血病、骨髄異形成症候群、急性骨髄性白血病、非ホジキンリンパ腫、血球貪食性リンパ組織球症、ランゲルハンス細胞組織球症、TAM														

長期にわたり診療するための具体的な診療体制

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙3を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

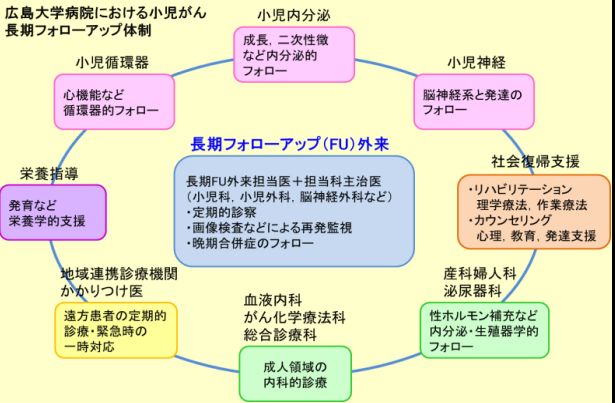
(ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【小児がん長期フォローアップ外来体制の構築】

広島大学病院では小児血液・がん専門医を中心に右図のような小児がん長期フォローアップ外来体制を構築している。長期フォローアップ外来(毎週水・木曜日午後)の担当医および各科患者主治医は、本体制の多職種連携のもとに、患者ならびに家族のフォローアップを継続している。小児血液・がん専門医以外の内分泌、循環器、神経を専門とする小児科医師や内科医師、産科婦人科医師、泌尿器科医師の協力のもとに定期的な受診とそれぞれの専門的検査を施行し、特に治療合併症による晩期障害の有無とその治療、画像検査による再発監視と二次がんの早期発見などを中心に緻密なフォローアップを行っている。また、JPLSG(日本小児白血病リンパ腫研究グループ)が作成した長期フォローアップ手帳の利用を開始し、経過中のすべての情報を患者、家族に提供している。



【発育・発達を考慮した長期フォローアップ】

患者の発育、発達のフォローアップは必須であり、入院中からの栄養士による栄養指導、臨床心理士による心理・教育的カウンセリング、リハビリテーション科による理学療法、作業療法をフォローアップ外来を通して継続し、定期的な多職種カンファレンスで議論し、問題点ならびに今後の治療方針を共有している。

【成人期に移行する症例の長期フォローアップ】

成人期に移行していく症例は長期フォローアップ外来を中心に血液内科医や総合診療科医師と連携して、患者の最適な治療や経過観察ができるように計画するとともに必要に応じて地域での診療機関やかかりつけ医とも連携を行っている。

【他施設との連携による長期フォローアップ】

当院は厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)「小児がん治療患者の長期フォローアップとその体制整備に関する研究」(平成19-21年度)における長期フォローアップ拠点モデル病院に設定された後、継続事業である厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)「小児がんの罹患数把握および晩期合併症・二次がんの実態把握のための長期フォローアップセンター構築に関する研究」(平成22-25年度)の分担研究施設として小児がん患者の長期フォローアップについての実態調査ならびに二次がんの発生に関する調査研究を施行した。更に、平成26年度には厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)「小児がん経験者に対する長期的支援の在り方に関する研究」の分担研究施設として小児がん経験者の実態調査ならびに必要な支援体制に関する調査研究を実施した。平成29年度から開始されている厚生労働省委託事業で小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」には医師・看護師・チャイルドライフスペシャリスト・心理士・相談員が参加した。長期フォローアップ体制を研究班事業の中での確立してきた。これらの研究班参加施設とは密接な連携体制が構築されているので患者家族の移動に伴ったフォローアップ体制の継続は容易である。また、後述する「中国四国ネットワーク」連携病院間では長期フォローアップ体制に関する情報共有と小児血液・がん学会を介した研修のもとに均てん化されたフォローアップ体制が確立されつつある。

AYA世代への診療提供体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況等）について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙4を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【広島大学病院がん治療センター】（右図）

AYA世代を含む小児から成人までのすべての年齢層に対応するがん診療部門を備えた診療体制を整備している。成人がん部門、小児がん部門、緩和ケア部門に加え、AYA世代がん部門を2018年4月に独立した一部門として設立し、各診療科で行っているがん診療を病院全体で統括し、サポートする体制を構築した。

【患者支援センターとの連携】（右図）

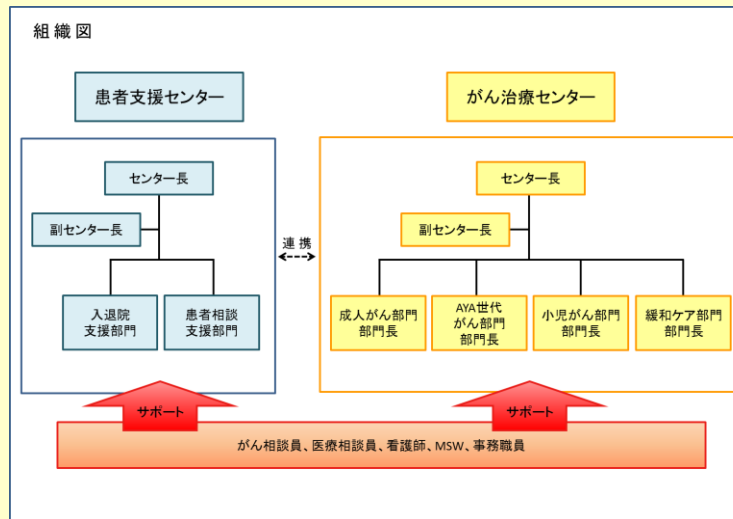
がん治療センターは、診療連携および患者相談支援を担っている患者支援センターと連携し、包括的がん診療の充実を図っている。

【AYA世代患者診療提供体制】

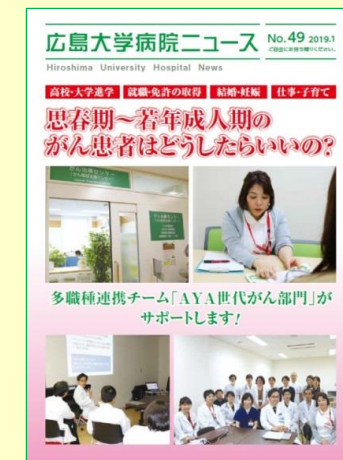
造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群）では基本的に16歳前後までは小児科で、それ以降は血液内科と連携した診療を行っている。固形腫瘍では、小児特有疾患（骨肉腫、横紋筋肉腫など）は20歳までは小児科が関連診療科（整形外科、耳鼻咽喉科、小児外科など）と連携して担当し、脳腫瘍は脳神経外科の腫瘍グループを中心に診療を行っている。

【AYA世代キャンサーボード】

2018年8月から、AYA世代キャンサーボードを月2回の頻度で定期的開催を行っている。特に、単一診療科では対応が難しい症例の検討を行っている。キャンサーボードには各診療科医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション科（理学・作業療法士、言語聴覚士）、ソーシャルワーカー、臨床心理士、栄養士などの多職種が参加し、治療方針の決定に加え、生殖機能温存、教育・就労など、AYA世代特有の多くの問題点について検討、解決策を講じている。



【AYA世代がんの病院広報】



生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(患者数は平成30年1月1日～12月31日)

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	2
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	0
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	10

OK

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙5を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【広島がん・生殖医療ネットワーク(HOFNET)の設立】

2017年3月にがん治療施設と生殖医療施設の連携(下図)を目的として広島がん・生殖医療ネットワーク(Hiroshima Onco-Fertility Network: HOFNET)を設立した。

【広島大学病院での若年患者さん・保護者への説明、紹介】

患者担当医、がん相談員、小児がん相談員は診断後早期に生殖機能の温存を右図のパンフレット「がん治療と妊よう性について」を用いて説明・紹介を行っている。中国・四国地区の連携施設においても「中国・四国ネットワーク」を通して、生殖機能温存に対する体制整備の推進を図っている。

【広島県助成制度】

2018年4月から広島県は生殖医療の温存支援としての助成制度を開始した。

助成額: 助成対象費用の1/2

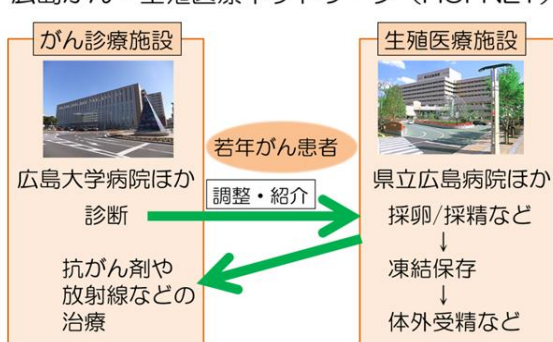
(上限: 男性2万円, 女性20万円)

【実績】

AYA世代の女性造血器腫瘍患者で卵巣、卵子保存を開始している。

精子保存は16年前から開始しており、継続保存を行っている。一部の患者さんで凍結精子を用いた人工授精から挙児を得ている。

広島がん・生殖医療ネットワーク (HOFNET)



【パンフレット(三つ折)】



薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名: 広島大学病院

開催された委員会の総件数:

12

OK

時期・期間:

平成30年1月1日～12月31日

化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

委員会の名称	がん化学療法委員会	
委員会の開催頻度	月1回	
委員会のメンバー	職種	役職
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長
1	医師	がん化学療法科 教授, 化学療法室長
2	医師	消化器外科 助教
3	医師	呼吸器外科 診療講師
4	医師	小児科 診療講師
5	医師	血液内科 准教授
6	医師	脳神経外科 講師
7	歯科医師	顎・口腔外科 准教授
8	薬剤師	薬剤主任
9	看護師	看護師
10	事務員	医事グループリーダー

OK

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数：

12

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		小児緩和ケアチーム		
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	精神科	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本サイコオンコロジー学会精神腫瘍登録医
2	医師	常勤	麻酔科	麻酔科標榜医、日本ペインクリニック学会専門医、日本麻酔科学会専門医・指導医
3	看護師	常勤	がん看護	日本看護協会認定 がん看護専門看護師
4	看護師	常勤	がん看護	日本看護協会認定 緩和ケア認定看護師
5	薬剤師	常勤	薬剤部	日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師、日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
6	医師	常勤	小児科	小児科専門医、小児血液・がん学会専門医・指導医、緩和ケア研修会修了
7	医師	常勤	小児科	小児科専門医、小児血液・がん学会専門医・指導医、緩和ケア研修会修了
8	看護師	常勤	小児看護	日本看護協会認定 小児看護専門看護師
9	臨床心理士	常勤	小児心理、がん心理	公認心理師、日本臨床心理士資格認定協会認定
10	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	常勤	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	北米チャイルド・ライフ・スペシャリスト資格認定

OK

緩和ケアチームへの患者紹介の手順

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙8を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

広島大学病院では下図に示すように、小児がん患者に対して、小児がん部門の緩和ケア担当スタッフが初期対応を行う体制として、下記の流れでケアを行っている。

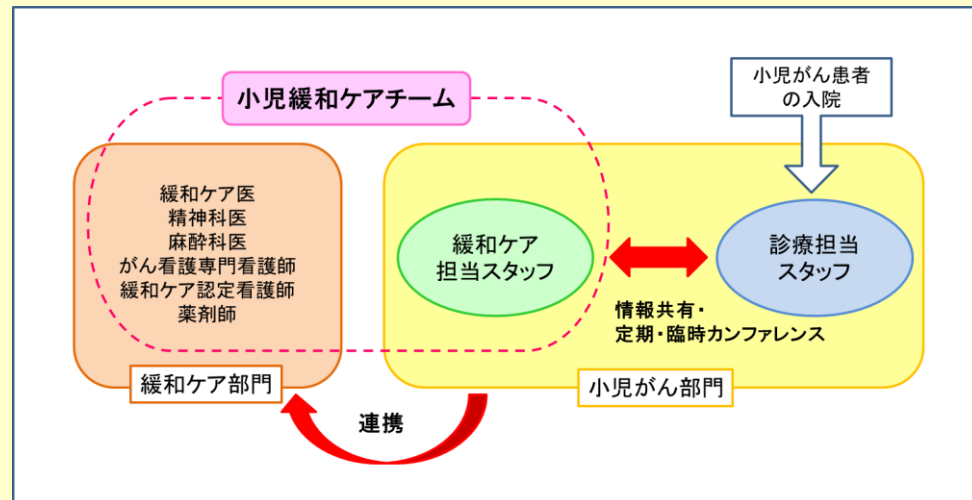
1. 新規小児がん患者や再発患者が入院した場合、主として担当医は診療を開始した時に、早期に小児がん部門の緩和ケア担当スタッフに情報提供を行う。

2. 緩和ケア担当スタッフのメンバーである臨床心理士(主として小学校高学年以上を対象)かチャイルド・ライフ・スペシャリスト(主として小学校低学年以下を対象)が中心となって、患者ならびに家族の心理的、身体的ストレスの緩和を目的とした早期介入を行う。担当医師による患者・家族への病状説明時には看護師とともに可能な範囲で同席し、医師から提供された内容や今後の治療方針等の情報共有をする。

3. 臨床心理士、チャイルド・ライフ・スペシャリストを中心とした緩和ケア担当スタッフと診療担当スタッフ(複数の担当医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション科スタッフ、保育士、院内学級教諭など)は定期的にカンファレンス(月1回開催)を開催している。患者の状態に応じては臨時的個別カンファレンスも行っている。患者と家族についての種々の職種からの情報提供と議論から、今後の関わり方等についての方針を共有した上でそれぞれの職務を遂行する。

4. 緩和ケア医や麻酔科医による疼痛緩和、精神科医による精神症状緩和などの対応が必要な状態と判断された場合には、緩和ケア部門の該当メンバーに依頼し、臨時的個別カンファレンスを行った後にそれぞれの職種の役割分担を行なう。

5. 入院中もしくは引き続き退院後も、緩和ケア担当スタッフと診療担当スタッフで情報を共有しながら、患者とその家族に対しての包括的診療を継続する。



緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：広島大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）										はい	OK
2	緩和ケア外来の名称		緩和ケア外来									
3	担当診療科名		なし									
4	主な診療内容・特色		入院中に緩和ケアチームが介入した患者・家族に対応。精神的、身体的苦痛にたいして、それぞれのチーム医師が継続的に関わっている。新患コンサルテーション枠も設け、外来からの緩和ケア介入も積極的に行っている									
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し	緩和ケア外来								
			アドレス	https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/cancer/kanwakea/gairai								
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）										はい	OK
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	
	窓口の名称		広島大学病院 緩和ケア外来									
	電話	代表	082-257-5555	(内線)	6819			直通	082-257-1537			
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	OK
	窓口の名称		緩和ケアチーム									
	電話	代表	082-257-5555	(内線)	6819			直通	082-257-1537			

緩和ケア病棟の状況

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟がありません				
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理					
3	小児の入院可否					
4	緩和ケア病棟の形式					
5	緩和ケア病棟の病床数		床			
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し				
		アドレス	http://			
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く					
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数（人） ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	（例） 医師	2	（例） 精神保健福祉士	1	

10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
12	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室									
13	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など									

地域の医療機関との連携協力体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

地域の医療機関との連携協力体制について自施設の取り組みや今後の予定を記載すること。(例：診療実績の少ない●●については××病院と協力。●●治療については××病院へ紹介。小児がん患者の在宅医療については●●診療所と連携し、急変時には受け入れることとしている。成人領域については××病院と協力し定期的に情報共有を図っている。)2枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙11を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／太田／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【中国・四国ネットワークの構築】

1. **医師ネットワーク** 中国・四国ブロックの拠点病院として、平成25年7月、各県で日本小児血液・がん学会が認定する研修施設である17連携病院および近畿ブロック拠点病院である兵庫県立こども病院と「小児がん中国・四国ネットワーク」を設置した。後に、九州ブロック拠点病院である九州大学病院も参加し、中四国＋兵庫＋福岡で一体となったネットワークを形成した。月1回のインターネットを用いたテレビ会議(56回開催済み)と、年1回の関係者が一同に介する運営会議(6回開催済み)を行っている。ネットワークの構築で、中国・四国ブロック内のいずれにおいても患者・家族に対して最新かつ最適医療が提供できるように、あらゆる情報の発信と共有が可能となり、小児・思春期がん診療の均てん化を推進している。新規症例を中心に診断と治療、再発/難治症例への対応、フォローアップ体制、療養体制、教育問題、生殖機能の温存、AYA世代患者への対応などを定期的に議論している。

2. **看護師ネットワーク** 上記関連施設の小児がん患者に携わる看護師間においても、毎月ネットワークカンファレンス(39回開催済み)を行うとともに、年に1度広島大学病院に於いて「中国・四国小児がん看護研修会」(5回開催済み)を開催している。各施設における、看護における特徴的な取り組みをお互いに共有し、看護管理、ケアの向上に努めている。年に1回の研修会では特別講師を招聘し、最新の医療情報の習得とグループによる少人数での討論から、小児がん患者家族に対する看護技術とケアの向上を目的としての中四国一丸となった研修を行っている。

3. **相談員ネットワーク** 中国四国相談支援部会を立ち上げ、年2回のテレビ会議を定期的に開催し、毎年開催されている小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会の内容をすべての連携病院に報告し、相談支援の均てん化に努力している。

【運営会議】

年1回開催の運営会議では医師、看護師、相談員のみならず、中国・四国各県のがん対策所管部局、患者会代表も参加し、当該県における小児がん診療の連携協力体制の整備に向けた情報提供、助言などの支援を行い、患者会との交流も含めた、中国・四国ブロック全体としての小児がん診療体制の構築とその活動を行っている。

【今後の予定】

- 各職種でのネットワーク会議への参加者増加を図る。特に若手医師、看護師への積極的参加を促し、育成強化を行う。
- 各職種で施行しているネットワーク会議を職種間ネットワーク(年に2-3回程度)へ拡大、連携を行うことで、小児がん患者・家族の包括的支援の充実と発展を図る。
- 同様なネットワークを構築している九州ブロックとのネットワーク会議を連結し、西日本ネットワークへと拡大することで、小児がん診療の向上を図るとともに、難治症例の拠点病院への集約化も考慮する。ブロック間連携の強化を行う。
- ネットワークを通して、がん登録事業を充実させるとともに、ブロック内での個別のデータ集積の発展に努める。

テレビ会議の様子



中国・四国小児がん看護研修会の様子



【小児がん中国・四国ネットワーク連携病院】

拠点病院：広島大学病院

小児がん診療病院

鳥取県：鳥取大学医学部附属病院

島根県：島根大学医学部附属病院

岡山県：岡山大学病院

川崎医科大学附属病院

岡山医療センター

倉敷中央病院

広島県：広島赤十字・原爆病院

山口県：山口大学医学部附属病院

徳島県：徳島大学病院

徳島赤十字病院

香川県：香川大学医学部附属病院

四国こどもとおとなの医療センター

愛媛県：愛媛大学医学部附属病院

愛媛県立中央病院

松山赤十字病院

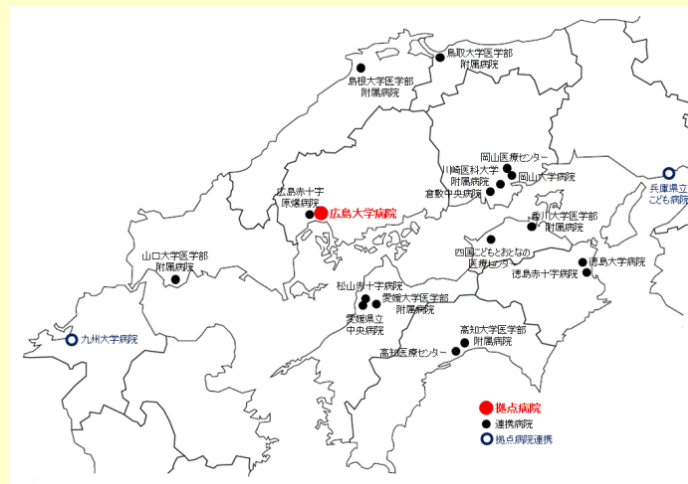
高知県：高知大学医学部附属病院

高知医療センター

拠点病院間連携

兵庫県：兵庫県立こども病院

福岡県：九州大学病院



【広島大学病院における連携体制】

1. 院内連携

広島大学病院小児科は小児・思春期の造血器腫瘍ならびにすべての分野の固形腫瘍患者に対して、がん治療センターを設置することで、診断、治療、緩和ケア、長期フォローアップ、教育心理社会的支援を含めた診療体制を確立している。

関連診療科（小児外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、眼科、泌尿器科、産科婦人科、がん化学療法科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科）と診療部門（薬剤部、輸血部、未来医療センター、再生医療部、リハビリテーション部、栄養管理部、総合医療研究推進センター、患者支援センター）のスタッフは質・量ともに十分に配備されているため、地域の病院で発生した症例は広島県内のみならず近隣県（山口県、島根県西部、一部岡山県、愛媛県）からの受け入れを行い、ほとんどの症例を当施設で診療を行っている。

2. 広島赤十字・原爆病院との連携

広島赤十字・原爆病院は造血器腫瘍疾患に関しては広島大学病院と同等に診療が可能であり（ただし、固形腫瘍の診療は少ない）、診療状況（病床稼働状況）を考慮しながら連携を行っている。特に一方の病院で病床管理が困難な場合には両病院で調整し、紹介患者を断ることなく診療連携を行ってきている。また、造血細胞移植においても同様であり、2病院で患者の移植の最適時期を考慮しながら、年間約30例以上の造血細胞移植を施行している。

広島大学病院と広島赤十字・原爆病院・山口大学医学部附属病院では小児血液・がん診療に従事する医師間で月に1回のインターネットを用いたテレビカンファレンスを定期的開催し、新規症例、難治症例の診断、治療方針等を共有することで若手医師育成を含めた連携の強化を図っている。

診療経験の少ない難治症例や希少症例については日本全国の専門医と相談・連携（必要によりセカンドオピニオンを利用）しながら、患者にとっての最良の医療が提供できるようにしている。

3. 緩和医療連携

緩和的治療に関しては地域訪問看護師や訪問医師と連携し、患者とご家族の希望に沿った、在宅での緩和的医療を実施している（小児がん患者においても、地域訪問看護師や訪問医師と連携して在宅での看取りを実施した例もある）。県内外からの患者を多く受け入れているため、退院後の外来診療、長期フォローアップは地域の病院と連携し、広島大学への定期的受診をしながら診療を継続している。

4. 成人領域連携

成人領域については広島大学病院血液内科、がん化学療法科、総合診療科、広島赤十字原爆病院血液内科と連携を行い、定期的な研究会や広島大学病院がんサージボードを利用して情報共有を図っている。成人へ移行する症例は必要に応じて血液内科への紹介も行うが長期フォローアップ外来を拠点として連携を継続している。

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：広島大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン	アドレス	https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/sinryoka/chuoshinryo/shien/		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 (実績)	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載あり	掲載なし	掲載なし	掲載あり	掲載なし	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。
※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄
に未入力な
し

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	2	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	脳神経外科	○	○	○	×	
2人目	脳神経外科	○	○	○	×	
3人目	放射線治療科	○	×	×	○	
4人目	がん化学療法科	○	×	○	×	
5人目						

OK

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	脳神経外科	○	○	○	×	
2人目	脳神経外科	○	○	○	×	
3人目	放射線治療科	○	×	×	○	
4人目	眼科	○	○	×	×	
5人目						

OK

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	×	○	×	
2人目	小児科	○	×	○	×	
3人目	整形外科	○	○	○	×	
4人目	放射線治療科	○	×	×	○	
5人目						

OK

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	×	○	×	
2人目	小児科	○	×	○	×	
3人目	小児外科	○	○	×	×	
4人目	小児外科	○	○	×	×	
5人目	放射線治療科	○	×	×	○	

OK

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	○	○	×	
2人目	小児科	○	○	○	×	
3人目	放射線治療科	○	×	×	○	
4人目						
5人目						

OK

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

小児がん患者の遊びの場（プレイルーム等）やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場（患者サロン等）について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。2枚以内におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙13を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

プレイルーム（4階西病棟）



小児がんなどの入院患者の遊びの場、病棟内レクリエーションやボランティアグループの催しを定期的に行っている。
多くのおもちゃ、図書、DVDを揃え、テレビ、DVD/BDプレイヤー、スクリーンを設置し、適宜使用している。
平日はチャイルド・ライフ・スペシャリストおよび保育士が乳幼児と学童を対象に遊びの時間を提供している。

【定期イベント】

2月：節分、7月：七夕、8月：夏祭り、10月：ハロウィン、12月：クリスマス。その他の月：映画観賞会

【ボランティアが主催する定期行事】



ほのぼのボランティア(月2回 紙芝居と折紙)、患者会 つばさの会(月1回 ヨガ、紙芝居、製作など)

学習室1(4階西病棟)



小中学生の交流の場・勉強の場。
勉強や、みんなでボードゲームをして遊んだり、
工作をしたりしている。ダーツが常設されている。

学習室2(4階西病棟)



AYA世代の交流・勉強の場。
パソコンが常設され、Skypeを用いた高校教育
に利用。英語教師による英語教室の開催。

デイルーム(4階西病棟)



患者家族が語り合うための場。

ライトコート(4階西病棟)



キャッチボールなどの軽い運動が可能。
年少児はシャボン玉遊びなども可能。
8月には簡易プールのイベントも行っている。

情報プラザ(診療棟2階)



患者家族が語り合うための場。
図書・パソコンが常設されている。

ファミリーハウス多目的ルーム



患者家族が語り合うための場。
プレイマットやおもちゃ・絵本も常設されている。
自炊可能で団らん・憩いの場として利用されている。

小児がん患者およびその家族が語り合うための場

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

語り合うための場総件数: 5

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)
				定期 /不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ /家族のみ /患者・家族		
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	名称 相談支援センター 電話 XXX-XXXX-XXXX直通
1	講演会・交流会・講演会	がんの子どもを守る会	あり	定期	月 1	小児がん	参加可	患者・家族	交流会(患者・家族・遺族)、運営 会議、講演会・勉強会、クリスマス 会など	名称 広島大学病院小児科 電話 082-257-5212直通
2	講演会・交流会	難病対策センター	あり	不定期	年 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がんに関する講演会、および 自由に語り合える場の提供	名称 難病対策センター 電話 082-257-5072直通
3	家族のつどい	難病対策センター	あり	不定期	年 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がんの子をもつ家族同士で自 由に語り合える場の提供	名称 難病対策センター 電話 082-257-5072直通
4	肝芽腫の会	肝芽腫の会	あり	定期	年 2	肝芽腫	参加可	患者・家族	肝芽腫に関する情報の提供と交流	名称 肝芽腫の会 電話 なし
5	デイキャンプ	がんの子どもを守る会、 ロータリークラブ	あり	定期	年 1	小児がん、小児難 病	参加可	患者・家族	小児がん・小児難病の患者・家族 と患者会・医療者の交流の場の提 供	名称 広島大学病院小児科 電話 082-257-5212直通
6										名称 電話
7										名称 電話
8										名称 電話
9										名称 電話
10										名称 電話

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称	情報プラザ						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	情報プラザのご案内					
		アドレス	https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/cancer/gansodan/plaza					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
		50冊以上	300冊以上	0	10種類未満	10種類以上	10種類未満	
		貸し出し不可	貸し出し不可		貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可	
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置あり		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	082-257-5555		(内線)	5657		
		直通1	082-257-1525		直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		看護師	2	人	ボランティア		4	人
		社会福祉士	1	人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	実施						

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書等が設置されている場の名称	ほのぼの図書館						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	院内の施設について					
		アドレス	https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/patient/nyuin/23					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載		その他	入院中・通院中の方に加えて付き添いの方や、職員も利用可能				
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
		0	100冊以上	0	100種類以上	10種類未満	0	
			入院中の方のみ可		入院中の方のみ可	入院中の方のみ可		
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置なし		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	082-257-5555		(内線)	2545		
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		事務職員(図書館司書)	1	人	ボランティア		15	人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施						

OK

OK

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

	年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	10	固形腫瘍合計	27
ALL	3	神経芽腫瘍群	0
AML	2	網膜芽腫	3
まれな白血病	0	腎腫瘍	1
MDS／MPDのうちCML	0	肝腫瘍	2
MDS／MPDのうちCMLを除く	1	骨腫瘍	3
Non-Hodgkin Lymphoma	1	軟部腫瘍	0
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	1
その他のリンパ増殖性疾患	0	脳・脊髄腫瘍	15
組織球症(HLH)	1	その他(診断名も記載すること)	2(甲状腺がん・口蓋がん)
組織球症(LCH)	1		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM 登録	1		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(研修会等の回数は平成30年1月1日～12月31日)

■研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	32
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	22
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	2
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	10

OK

■研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数: 2

OK

プログラム名		期間	対象者	H30 年度 (人)	R1 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先				プログラムの特徴	
		例 2年	例 医師卒後 〇年～〇年				自施設 (人)	自施設以外				
								大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)		その他 (人)
1	広島大学病院日本小児血液・がん専門医研修施設 研修プログラム	1～2 年間	医師卒後3 年～8年	2	2	14	10	0	0	4	0	小児造血器腫瘍・固形腫瘍・非腫瘍性血液疾患についてバランス良く研修することが可能である。
2	中国四国ブロック小児がん看護プログラム	2日	小児がん医療に携わる 看護師	30	26	147	29	58	16	44	0	中国四国ブロックの小児がん看護実践能力の均てん化と強化のための教育プログラムであり、小児がんにおける看護ケアについて事例検討を含めた研修が可能である。
3												
4												
5												

相談支援センターの体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名:

広島大学病院

時期・期間:

令和元年9月1日現在

相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

相談支援センターの名称				がん治療センター　がん医療相談(がん相談支援センター)				
相談支援センターのメンバー								
職種		常勤／非常勤	専従／専任／兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修
					基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)	
1	看護師	常勤	専従(8割以上)	5	受講	受講	受講	受講
2	看護師	常勤	専従(8割以上)	8	受講	受講	受講	未受講
3	看護師	常勤	専従(8割以上)	1	受講	受講	受講	未受講
4	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	12	受講	受講	受講	未受講
5	看護師	常勤	兼任(5割未満)	2	受講	受講	未受講	受講
6	看護師	常勤	兼任(5割未満)	2	受講	受講	未受講	受講
7	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	常勤	兼任(5割未満)	3	受講	受講	未受講	受講
8	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	常勤	兼任(5割未満)	3	受講	受講	未受講	受講
9	公認心理師	常勤	兼任(5割未満)	3	受講	受講	未受講	受講
10	公認心理師	常勤	兼任(5割未満)	2	受講	受講	未受講	未受講
11								
12								
13								
14								
15								

OK

●年間の相談総件数(平成30年1月1日～12月31日)

170

件

上記1件あたりの平均対応時間

平均

38

分

最短

10

分

最長

120

分

中央値

30

分

OK

相談件数(令和元年6月1日～7月31日)

	相談者	対面相談	電話相談	FAX相談	E-mail相談	計
1	自施設の患者・家族	18	4	0	0	22
2	他施設の患者・家族	1	4	0	0	5
合計		19	8	0	0	27

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄で掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	小児がんの病態、標準的治療法など小児がん診療に関する一般的な情報提供	自施設と他施設の患者・家族
2	小児がんの子どもと家族への療養上の相談	自施設と他施設の患者・家族
3	長期フォローアップ外来での相談	自施設と他施設の患者・家族
4	復学支援の相談	自施設と他施設の患者・家族
5	セカンドオピニオン受け入れの相談、他院への紹介	自施設と他施設の患者・家族

OK

相談支援センターの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

相談支援センターの相談員など、相談支援センターの雰囲気が伝わる画像を貼付してください。
この画像は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載いたします。
このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙18を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 (あり/なし)
ファイル形式 (ワード/ノータボ/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【必須】相談支援センターページの基本情報で掲載する画像を**「1枚」、上記の別添資料の有無に関わらず**提出してください。
※横長の写真の方が収まりがよいです。
※上記の別添資料と同じ画像でも構いませんが、写真ファイル名を**「別紙18相談支援センター画像」**として別に添付してください。
ファイル形式 (PNG/JPEG/GIF/その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。



相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	がん治療センター がん医療相談(がん相談支援センター)						OK	
2	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	082-257-5555	(内線)	6648				
		直通1	082-257-1648						
		直通2							
		直通3							
3	対面相談の実施(実施/未実施)	実施							OK
	予約の要否(必要/不要)	不要							
	電話相談の実施(実施/未実施)	実施							OK
	相談用の電話番号	代表	082-257-5555	(内線)	6648				
直通1		082-257-1648	直通2						
予約の要否(必要/不要)		不要							
4	FAX相談の実施(実施/未実施)	未実施							OK
	相談用のFAX番号 ※半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載	直通1				直通2			
		代表							
	電子メール相談の実施(実施/未実施)	未実施							OK
	相談用の電子メールアドレス ※半角英数で記載 ※個人のメールアドレスは記載しないでください	1							
2									
5	相談員の職種・人数 ※選択肢に含まれていない職種の場合は、その他の欄に直接記載	(例) 精神保健福祉士		2	人	ソーシャルワーカー(上記以外)		1	人
		看護師		5	人				人
		医療心理に携わる者		2	人				人
		社会福祉士		1	人				人
					人	その他 その他	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	2	人
					人				人
		ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施						
具体的な活動内容									
6	地域の患者会の情報提供の有無	あり							OK
	提供可能な患者会の数	3							

7	上記患者会の参加対象者の疾患名 ※特定の疾患の患者さんや家族を対象とした患者会が含まれている場合のみ記載 (例:乳がん、血液腫瘍、子どものがん、女性のがんなど)	小児がん全般(白血病、脳腫瘍、神経芽腫など)、肝芽腫
---	--	----------------------------

小児がん患者団体との連携

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

団体総件数: 3

OK

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

小児がん患者団体			具体的な連携の内容 (例：月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
団体名		団体の参加対象者	
1	がんの子どもを守る会広島支部	患者, 家族, 医療関係者	年1回の総会で講演会ならびに交流会、デイキャンプを開催している。 月1回の運営会議で活動について検討を行っている。
2	がんの子どもを守る会中国・四国支部	患者, 家族, 医療関係者	年1回の講演会ならびに交流会を開催している。
3	肝芽腫の会	患者(肝芽腫), 家族	年に2回開催し, 広島大学が代表世話人である日本小児肝がんスタディグループの研究会で肝芽腫について治療の進歩や最近の情報を提供している。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

地域住民へのメッセージ

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 広島大学病院

※本別紙は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」のがん診療連携拠点病院のページに掲載することを目的としています。
※各項目200字以内で記載してください。

1	小児がん拠点病院としてのメッセージ
	(例) 当院は、すべてのがん患者さんの治療方針の決定を外科、腫瘍内科、放射線治療等複数の領域の専門家による「カンサーボード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。
2	小児がん拠点病院として中国四国地区9県で小児がん治療を行っている17病院および兵庫こども病院、九州大学病院と連携して、小児がん患者、家族に対して最善の治療と支援ができるように活動を行っています。中四国地方は交通の便が悪いため、19の連携病院間でWeb会議を1か月に1回開催し、小児がんに関する最新情報や治療方針などを検討しています。Web会議は医師間のみならず、看護師間、相談員間でも行っており、すべての医療職が情報共有と知識向上を目指し、小児がん患者ならびに家族のみなさまに、一定水準以上の治療と支援が提供出来るように努力しています。広島大学病院ホームページから、広報を行っています。
	相談支援センターからのメッセージ
3	(例) 医療ソーシャルワーカーが皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介させていただきます。
	小児がん担当の相談員がお話を伺いながら、問題解決や不安を解消するためのお手伝いをさせていただきます。また、病気の診断や治療に関する一般的な情報を提供したり、日常生活や療育(成長発達など)、学校生活に関して困っておられることへの支援も行います。「中国四国地域の小児がん患者さんとご家族のためのサポートブック」(2017年度作成、2019年度改正予定)を利用して、経済的・社会的支援を紹介し、少しでも患者さんやご家族の負担や不安が軽減できるよう努めています。ご相談の内容により、専門的な対応が望ましいと判断した場合は、各専門職と連携をとってご相談に対応します。
4	緩和ケアチームからのメッセージ
	(例) 緩和ケアチームには、長年緩和医療に携わっている経験を積んだ医師、看護師、薬剤師が含まれ、身体的な痛みを始め、患者さんの精神的苦痛を和らげるため、担当医と連携し、最善の医療を提供します。
5	新規入院患者ならびに緩和ケアが必要な患児・家族に対しては緩和ケアチーム内の小児がん担当臨床心理士(2名)やチャイルド・ライフ・スペシャリスト(2名)が中心となって、早期から介入する体制を構築している。また、経過によって緩和医療に携わっている医師(PEACE研修、CLIC研修受講済)、看護師、薬剤師も一緒に加わり、症状の緩和に努めています。緩和ケア用の個別病棟は設置していませんが、緩和ケアが必要な患者については各病棟で個室を優先的に使用して、充実した時間を過ごせるように工夫しています。緊急に緩和ケアチームを必要とする患者に対してはいつでも入院対応が出来る病室を確保(2階東病棟)しています。
	緩和ケア病棟からのメッセージ(※緩和ケア病棟が設置されている場合のみ記載してください。)
6	(例) 緩和ケア病棟は、別棟となっており、全室から中庭に出ることが可能で、豊かな自然を感じて、充実した時間を過ごすことができます。

臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

各部門のメンバー（個人情報を記載しないよう注意すること）

メンバー総人数： 60

OK

各部門名		各部門のメンバーの専門性・職種
例	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジュ、生物統計家、事務担当
1	医学系研究支援部門	臨床研究支援専門担当者、CRC、事務担当
2	教育研修・ネットワーク支援部門	教員、データマネージャー、事務担当
3	データサイエンス部門	教員、CRC、データマネージャー、事務職員
4	治験管理部門	教員、CRC、薬剤師、事務担当
5		
6		
7		
8		
9		
10		

臨床研究の問い合わせ窓口

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：広島大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

【臨床試験（治験を除く）】の問い合わせ窓口													
1	■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について						臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある			OK			
	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。												
	窓口の名称						広島大学病院 総合医療研究推進センター						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください						見出し				患者さん／一般の方へ＞臨床研究に関するお問い合わせ		
							アドレス				https://cimr.hiroshima-u.ac.jp/general		
電話						代表			082-257-5555 (内線) 6752				
						直通			082-257-1752				
2	■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある			OK			
	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。												
	窓口の名称						広島大学病院 総合医療研究推進センター						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください						見出し				研究者の方へ＞お問い合わせ		
							アドレス				https://cimr.hiroshima-u.ac.jp/rinsho		
電話						代表			082-257-5555 (内線) 6752				
						直通			082-257-1752				

【 臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口										
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について						担当している診療科が窓口となっている				OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称									
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し						
				アドレス		http://				
	電話			代表		(内線)				
				直通						
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						担当している診療科が窓口となっている				OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称									
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し						
				アドレス		http://				
	電話			代表		(内線)				
				直通						
【 治験 】の問い合わせ窓口										
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について						治験専用の窓口がある				OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称			広島大学病院 総合医療研究推進センター						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し		患者さん／一般の方へ＞治験に関するお問い合わせ				
				アドレス		https://cimr.hiroshima-u.ac.jp/general				
	電話			代表		085-257-5555	(内線)	5596		
				直通		082-257-5596				
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						治験専用の窓口がある				OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称			広島大学病院 総合医療研究推進センター						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し		治験依頼者の方へ＞お問い合わせ				
				アドレス		https://cimr.hiroshima-u.ac.jp/chiken				
	電話			代表		085-257-5555	(内線)	5596		
				直通		082-257-5596				

教育支援、復園・復学支援の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

教育支援、復園・復学支援の状況について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙24を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【**小中学校教育支援**】 広島大学病院では最寄りの小学校および中学校の特別支援学級の分校である院内学級を入院棟内に設置している。比治山小学校：2名の院内学級専任教諭、段原中学校：1名の院内学級専任教師および各教科担当の教師が児童・生徒の教育支援にあっている。

【**高校教育支援**】 高校生に対しては原籍校の教師ならびに広島県、広島市教育委員会の特別支援担当教諭が連携した教育支援、教科ごとの課題に対するレポート作成から単位取得の方法を考慮している。これらに対して、ボランティア学生と広島大学アクセシビリティセンター指導員が個別に教育支援を行い、単位認定からの進級を可能としている。また、ICTの活用による遠隔授業も導入している。

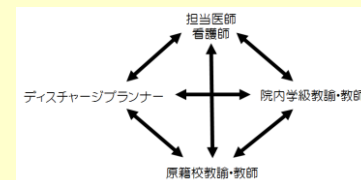
【**学習室の設置**】 小中学生用の学習室、AYA世代用の学習室(別紙13:語り合うための場設定状況参照)を病棟に設置し、学習に専念出来る部屋を利用させている。また、年少児に対してはチャイルド・ライフ・スペシャリストや保育士が中心となり、プレイルーム内での遊びを通して発育発達の支援を行っている。

【**Doctor-teacher-association (DTA)**】 担当医や看護師は必要に応じて院内学級の教諭・教師に患者の病状について情報提供を行っている。さらに、毎月定期的開催される情報交換会(DTA: Doctor-teacher-association)の場においても病棟医長および看護師長は院内学級の教諭・教師および校長に対して患者の病状について情報提供を行うとともに学習状況についての報告を受け、必要な支援についての情報共有を図っている。また、院内学級教諭・教師は診療スタッフ(担当医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション科スタッフ、臨床心理士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、保育士)が行うカンファレンス(月1回開催)にも参加し、患者および家族についての情報提供や議論を通じて教育支援に生かしている。併せて患者の状態により随時、個別カンファレンスも行っている。

【**小児がん子どもの教育セミナー**】 平成28年3月、平成29年3月、平成30年8月、令和元年8月には小児がんの子どもの教育セミナーを県・市教育委員会と共に開催し、小児がん患者の教育提供体制について議論を深め、長期入院が必要な患児、特に高校生に対する円滑な教育支援実施のための体制を構築している(右写真)。

【**復園・復学支援の状況**】 ディスチャージプランナーである専任看護師(小児看護専門看護師)と臨床心理士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、保育士が院内学級教諭・教師と連携して復園・復学支援のための心理的、教育的アプローチを行なっている。ディスチャージプランナーおよび院内学級教諭・教師は原籍校との連絡を継続的に行い、退院後のスムーズな復園・復学に繋がるよう、必要な受け入れ態勢の整備を入院早期から働きかけており、退院前には個別面談も行っている。

小児がんの子どもの教育セミナー



長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 広島大学病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙25を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

ファミリーハウス
2015年5月 設置
宿泊室：11室
(洋室9室/和室2室)
管理人常駐(平日)

洋室



和室



共用：多目的ルーム
ランドリースペース

各宿泊室：ミニキッチン、
冷蔵庫、電子レンジ、テレビ、
ユニットバス、エアコン、等
完備

多目的ルーム



多目的ルーム：
患者家族が共同で使用
が可能。お互いに自由
に交流が出来るスペ
ースとして、患者間での
交流を促進している。
がんの子どもを守る会
が患者相談の場に利用。



徒歩3分



利用料金(大人1人)
1泊：1,500円
(シーツ交換等の料金を含む)
日帰り利用：500円
※患児及び小学生以下の児童は無料

利用者数実績(延べ数)
2018年度：1745名
2019年度(8月末時点)
：391名

PDCAサイクルについて

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 広島大学病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している **はい** (はい/いいえ)
 ②院内誌、チラシ等で広報している **はい** (はい/いいえ)
 ③ホームページに掲載している **いいえ** (はい/いいえ)
 ④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

<http://>

- ⑤地域の広報誌等で広報している **いいえ** (はい/いいえ)
 ⑥その他の方法で掲載している **いいえ** (はい/いいえ)
 ⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3カ月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 患者満足度の向上	当該年度の外来及び入院患者満足度が前年度を上回る	患者満足度アンケート調査の実施
2 小児がん患者・家族の療養生活の向上	ケア・サポートを活用してもらい、小児がん患者・家族の負担軽減に役立てる	中・四国ブロックの相談支援部会においてサポートブックの活用状況調査の実施
3 ターミナル・デスケースカンファレンス	多職種参加によるカンファレンスを実施する	カンファレンス開催回数を算定
4 造血細胞移植についてのインフォームドコンセント	インフォームドコンセントに看護師が同席する	インフォームドコンセントへの看護師同席率を算定
5 造血細胞移植について中国四国ブロックでの連携	造血細胞移植について中・四国ブロックの施設間で共有する	造血細胞移植について中・四国ブロックの施設間での共有状況を調査する

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	アンケート調査結果は関係部署で集計・分析した結果に基づき改善に向けた検討を行うとともに、院内掲示板を利用して広報する。
2	小児がん患者・家族へサポートブックを配付し、利用可能な経済的・社会的支援や相談窓口等の情報提供を行う。
3	ターミナル・デスケースについてのカンファレンス実施について多職種に参加を案内する。
4	造血細胞移植についてのインフォームドコンセントを看護師が同席しやすい時間帯に実施する。
5	造血細胞移植について中・四国ブロックのweb会議による看護カンファレンスで情報共有する。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙26を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 **なし** (あり/なし)

ファイル形式 (ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制】

広島大学病院では、「PDCAサイクルの確立による組織のさらなる活性化」と「患者満足を向上させる」ことを目的として、平成19年12月19日付けで、病院全体でISO9001の認証を取得した。
 以後、各部門ごとに年度目標を設定して達成度を自己点検するとともに、継続的に内部監査を実施するなどPDCAサイクルの活用を通じて、組織全体で医療サービスの向上と業務改善に取り組んでいる。

患者苦情相談やご意見等については関係部署毎に返答を行い、改善策を講じている。また月1回の業務連絡会議(病棟、外来医長、診療支援グループが参加)において公開し、すべての問題点と改善策を共有している。

【自施設および小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制】

月1回のネットワーク会議(Web会議)において、各連携病院からの疑問点等は議論し、それぞれの病院で対応策、改善策を共有している。

医療安全体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名：広島大学病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

医療に係る安全管理を行う部門の名称			医療安全管理部		
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー					
職種		常勤／非常勤	専従／専任／兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数
1	医師	常勤	専従	1	1
			専任	2	2
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
2	薬剤師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
3	看護師	常勤	専従	2	2
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

OK

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		患者支援センター（医療相談）				
電話	直通	082-257-5940				
	代表	082-257-5555	（内線）	5940		

OK